

たんば“移充”テラス 平成30年度活動報告

2019年5月 一般社団法人Be

丹波市移住定住促進 「たんば“移充”テラス」 運営事業について

目的

都市住民による田舎暮らしへの関心が高まる中、都市部からの移住者の受入れや交流人口の拡大による地域活性化を図るため、住まい、仕事、就農、子育て支援、人のネットワーク等について、ワンストップで対応し、きめ細やかで相談者に寄り添った相談を行うとともに、幅広い地域情報の収集と効果的な情報発信及び交流事業を行い、人と人とのつながりによる移住・定住を促進します。

内容

移住相談、交流イベントの実施や情報発信などの移住・定住業務を一元化した「たんば“移充”テラス」を民間委託により運営し、効率的・効果的にサービスを提供します。

- 移住相談窓口業務
- 仕事情報サイト「たんばの仕事」の運営業務
- たんば“移充”計画運営業務
- 移住定住促進業務
- 移住定住ポータルサイト「Turn Wave」の管理運営業務

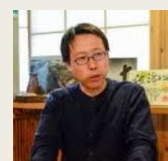
こんにちは！ たんば“移充”テラスです。

■ 丹波市の移住定住促進事業です

丹波市では、加速する人口減少に対応するための移住定住促進事業を行っています。これまでは行政と連携したワンストップ移住相談窓口やふるさと定住促進会議など、様々な主体が担っていましたが、平成30年度からはこれらが一元化され「たんば“移充”テラス」として再スタートしました。

■ 一般社団法人Beが業務委託を受けています

一般社団法人Beとは、人口減少の時代にも「住み継がれるまち」の実現を目指し丹波市内を拠点にするまちづくり会社。元地域おこし協力隊で青垣出身の中川を中心に移住経験のある子育て世代でチームを組み活動しています。現在、大路（春日町松森）に譲り受けた古民家を活動拠点として改装作業中。



目次



1. 移住相談の推移と分析
2. 事業ごとの活動内容
3. 丹波を住み継ぐために私たちが今すべきこと
4. これからの田舎暮らしを考えるヒント

1 .

移住相談の 推移と分析

丹波市の移住相談窓口に寄せられる各種相談の件数や内容、また、実際に移住を決めた人に関するデータをまとめ、分析。移住にまつわる動向を読み取る。

「移住相談は件数・人数共に過去最多」

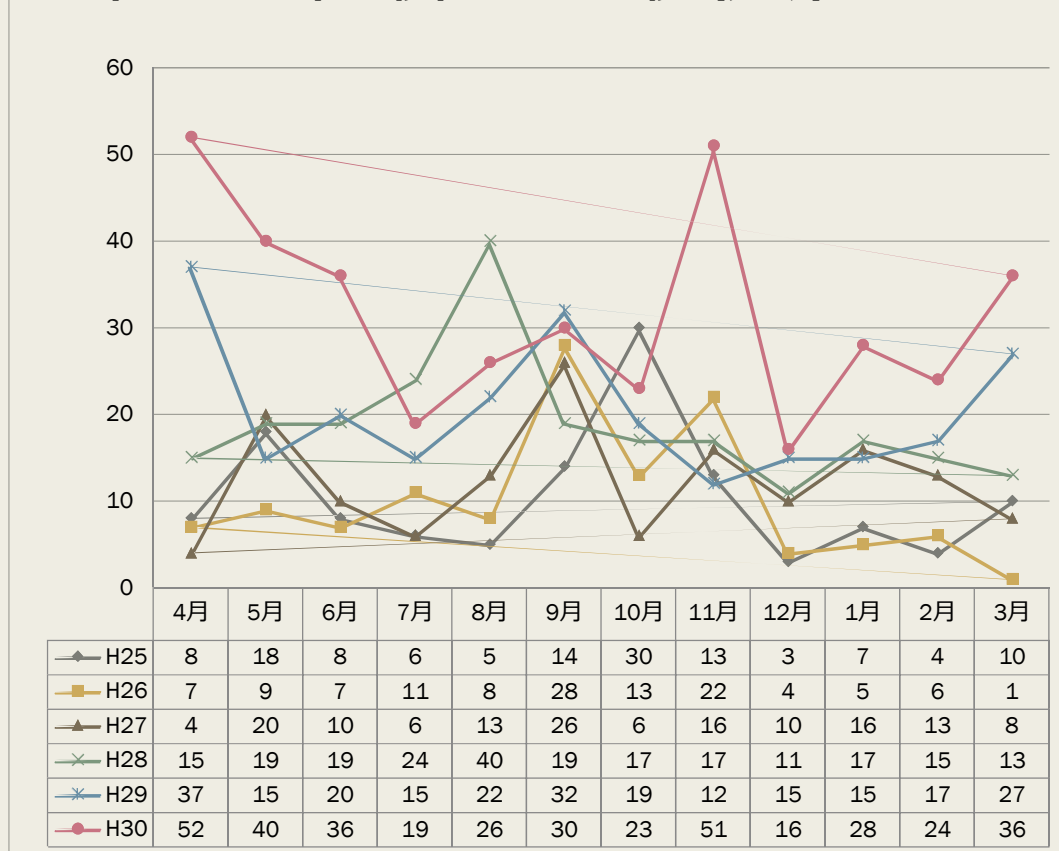
移住相談件数は前年比850件（実人数135名）で、どちらも約35%の増加。6月は相談員の増員とチャットアプリによる問い合わせが集中した結果、11月の増加は安価な空き家情報を公開した結果、2月は移充計画の交流会の告知宣伝を大々的に行った結果による。

H30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
バンク	65	80	72	88	63	63	68	152	72	81	70	107	981
テラス	100	100	165	126	124	97	78	114	67	111	156	139	1377
合計	165	180	237	213	187	160	146	266	139	192	226	246	2355
実人数	52	40	36	19	26	30	23	51	16	28	24	36	381

H29年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
バンク	66	74	36	18	54	106	79	58	39	73	72	94	769
ワン ストップ	42	41	76	86	28	78	77	91	55	71	58	33	736
合計	108	115	112	104	82	184	156	149	94	144	130	127	1505
実人数	37	15	20	15	22	32	19	12	15	15	17	27	246

これまでの流れ

H25年度～H30年度 移住相談の推移（人数）



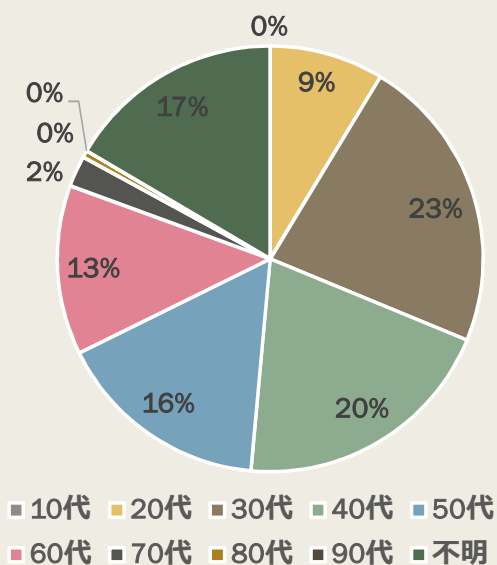
- 例年夏から秋にかけて相談が多いのは、全国規模の移住イベントなどが頻発するタイミングでもあるため。
- また4月の新年度開始にかけての転職などで移住の準備を進める人もいることが毎年のトレンドの一つとして見られる。
- それ以外の増減は、季節的な要因よりも、こちらから提供している情報やイベントなどによって左右される傾向にある。（例えば空き家情報が多い時は問い合わせも多いなど）

Who

移住相談者の年齢層は？

相談者の年齢は、近年と変わらず30代と40代が大多数を占めている。相談者は、窓口立つ相談員の年代などから相談をするかどうかを判断していることがうかがえる。

H30年度 移住相談人数（世代別）

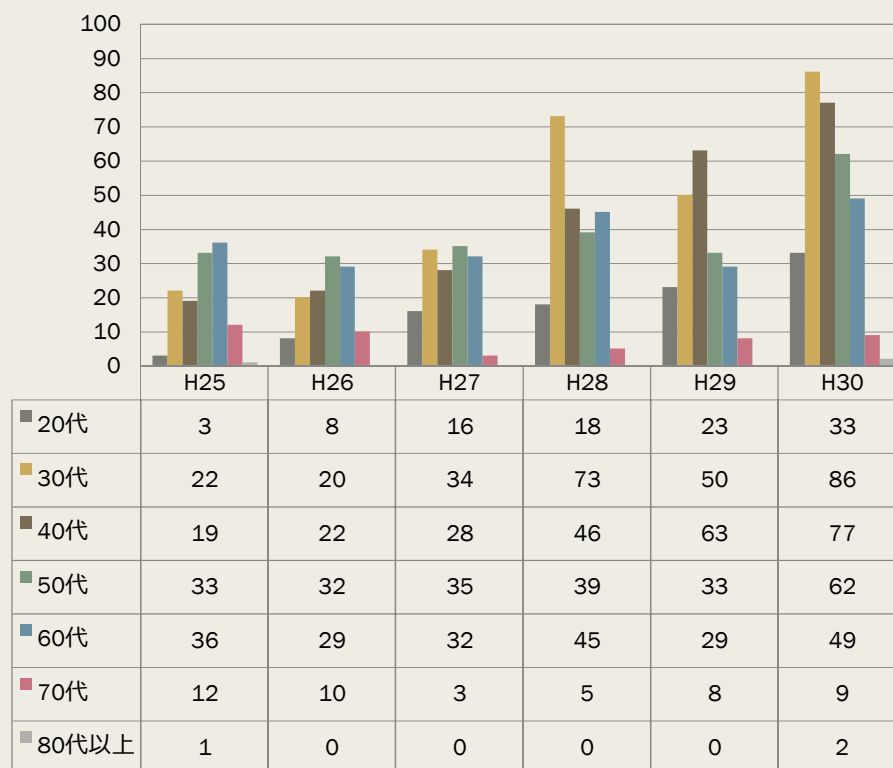


10代	0	0%
20代	33	9%
30代	86	23%
40代	77	20%
50代	62	16%
60代	49	13%
70代	9	2%
80代	2	1%
90代	0	0%
不明	63	16%
合計	381	100%

※単位は人数

これまでの流れ

移住相談件数推移（年代別）



- H27年度は若い年代だけ増加。市外での独自イベント実施、相談員の年代が30代だった。
- H28年度は30代からの反響が大きい。ネット上に移住者インタビューの掲載を開始。
- H29年度は40代が増加。子育て世代に向けた情報発信の影響とみている。
- H30年度は、前年度以上に積極的に子育て世代の実体験を前面に出していたこともあり、この世代からの相談件数が増加しているとみている。

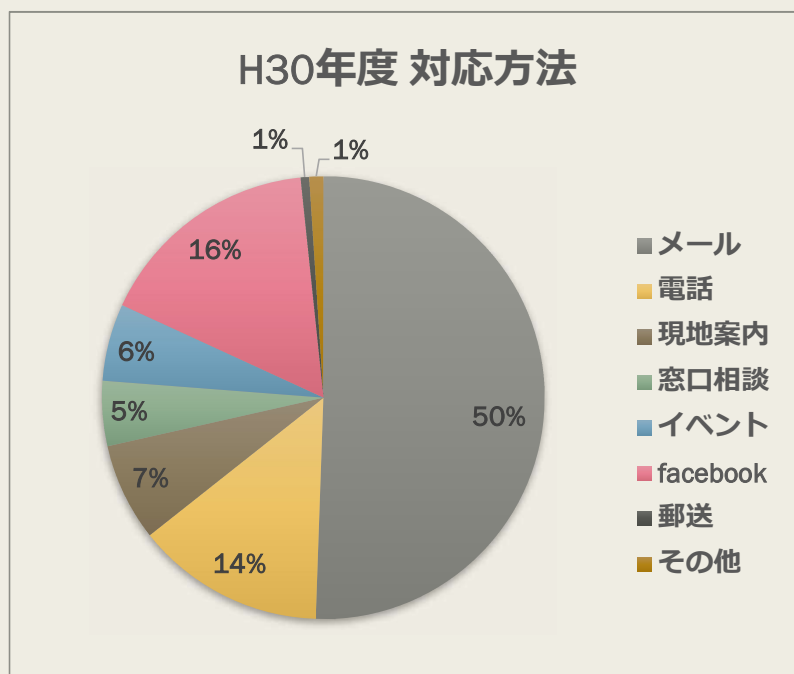
※H29年度：年齢不明が40名

※H30年度：年齢不明が63名

How

移住相談の方法は？

問い合わせ方法はメールでの問い合わせが、近年と変わらず大多数を占めている。ネットなどで収集できる田舎暮らし情報が豊富になっているからか、あらかじめTurn Waveなどから情報を入手したうえで窓口相談される人がほとんど。窓口での対応は、移住する意志がある程度固まった実践前提の移住相談が増えてきている。



対応方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	率
メール	46	78	118	106	66	91	76	167	92	128	105	117	1190	50.5%
電話	27	30	35	29	30	23	16	30	20	18	27	40	325	13.8%
現地案内	13	16	21	14	16	11	15	11	8	8	11	24	168	7.1%
窓口相談	7	8	7	8	15	11	10	10	7	9	8	12	112	4.8%
イベント	5	14	9	11	7	12	6	14	4	17	22	12	133	5.6%
facebook	63	29	43	39	50	10	22	28	8	9	50	37	388	16.5%
郵送	2	2	2	4	2	0	0	0	0	1	2	0	15	0.6%
その他	2	3	2	2	1	0	1	6	0	2	1	4	24	1.0%
合計	165	180	237	213	187	158	146	266	139	192	226	246	2355	100.0%

※単位は件数

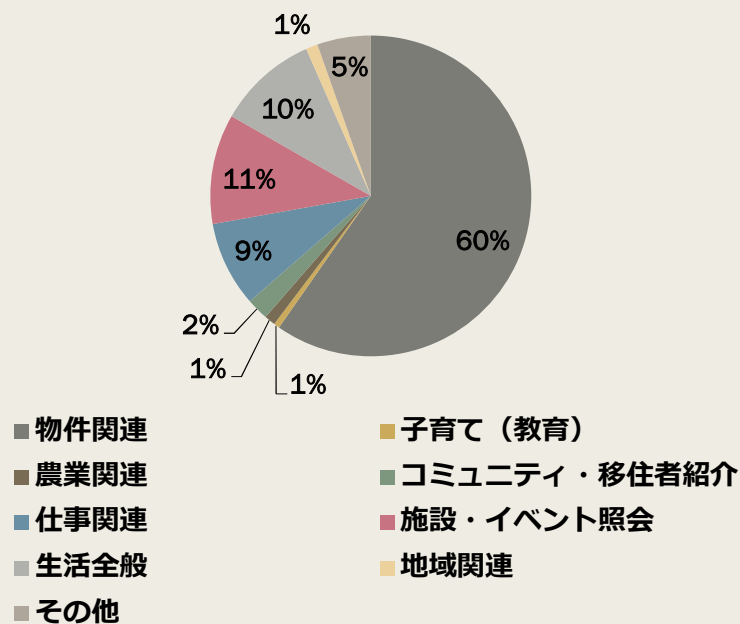
What

移住相談の内容は？

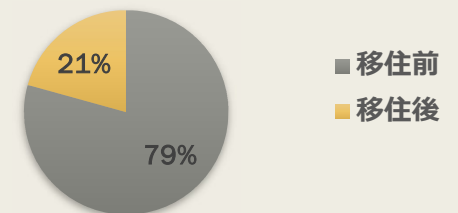


相談内容はこれまでと変わらず物件関連が最も多く、この約半数がたんば“移充”テラス経由で住まいるバンクを紹介する案件。年度後半に増加したのがイベントについての照会で、これは主にたんばの仕事や移充計画の交流会などに関するプロモーションを強化したためと考えられる。

移住相談の内容

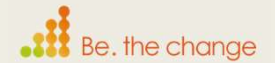


移居前・移住後

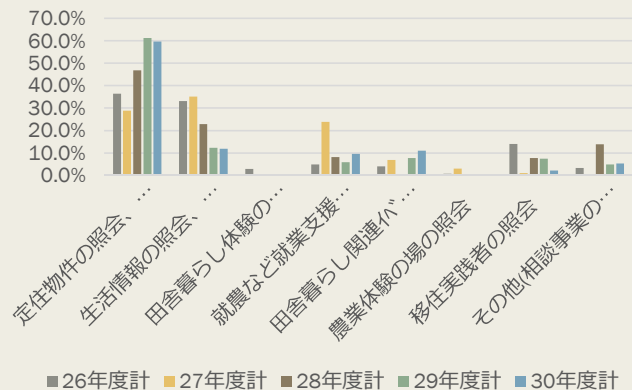


相談区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
物件関連	96	98	162	143	119	98	92	174	79	94	102	149	1406
子育て（教育）	0	2	3	2	4	0	0	1	1	0	1	0	14
農業関連	0	4	0	6	1	2	4	2	4	1	2	0	26
コミュニティ・移住者紹介	7	1	6	4	0	1	4	20	6	1	1	1	52
仕事関連	21	31	13	26	23	21	12	14	2	10	15	14	202
施設・イベント照会	13	4	7	11	8	8	13	26	21	45	58	47	261
生活全般	15	30	20	11	23	24	16	19	23	19	12	27	239
地域関連	13	3	1	0	1	2	1	7	0	0	0	0	28
その他	0	7	25	10	8	2	4	3	3	22	35	8	127
合計	165	180	237	213	187	158	146	266	139	192	226	246	2355

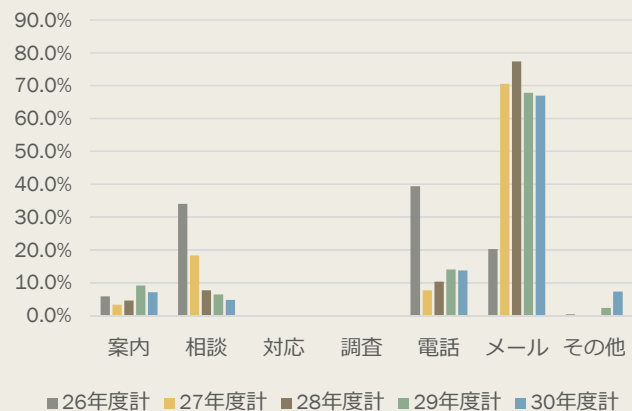
これまでの流れ



相談内容別割合推移



相談手法別割合推移



	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	
定住物件の照会、相談	88	36.5%	198	28.9%	638	46.9%	922	61.3%	1406	59.7%
生活情報の照会、相談	80	33.2%	241	35.1%	311	22.9%	186	12.4%	281	11.9%
田舎暮らし体験の場の照会	7	2.9%	5	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
就農など就業支援の照会	12	5.0%	164	23.9%	112	8.2%	89	5.9%	228	9.7%
田舎暮らし関連イベントの照会	10	4.1%	48	7.0%	1	0.1%	117	7.8%	261	11.1%
農業体験の場の照会	2	0.8%	21	3.1%	0	0.0%	3	0.2%	0	0.0%
移住実践者の照会	34	14.1%	8	1.2%	107	7.9%	113	7.5%	52	2.2%
その他(相談事業の照会等)	8	3.3%	1	0.1%	190	14.0%	75	5.0%	127	5.4%
合 計	241	100.0%	686	100.0%	1359	100.0%	1505	100.0%	2355	100.0%

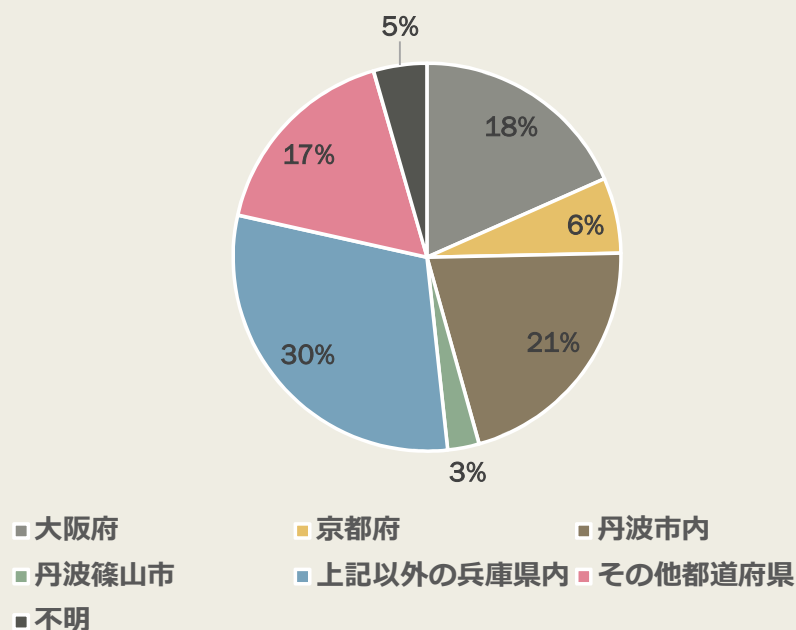
	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	
案内	14	5.8%	23	3.4%	62	4.6%	138	9.2%	168	7.1%
相談	82	34.0%	126	18.4%	105	7.7%	97	6.4%	112	4.8%
対応	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
調査	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
電話	95	39.4%	53	7.7%	140	10.3%	212	14.1%	325	13.8%
メール	49	20.3%	484	70.6%	1052	77.4%	1022	67.9%	1578	67.0%
その他	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	36	2.4%	172	7.3%
合 計	241	100.0%	686	100.0%	1359	100.0%	1505	100.0%	2355	100.0%

Where

どこからの相談か？

これまで兵庫県内での相談会や交流会の機会は少なかったが、昨年度は県内都市部からの移住相談が最も多かった。これを受けて2月末には初開催となる「神戸丹波会」を開催した。

H30年度 移住相談者の現住所



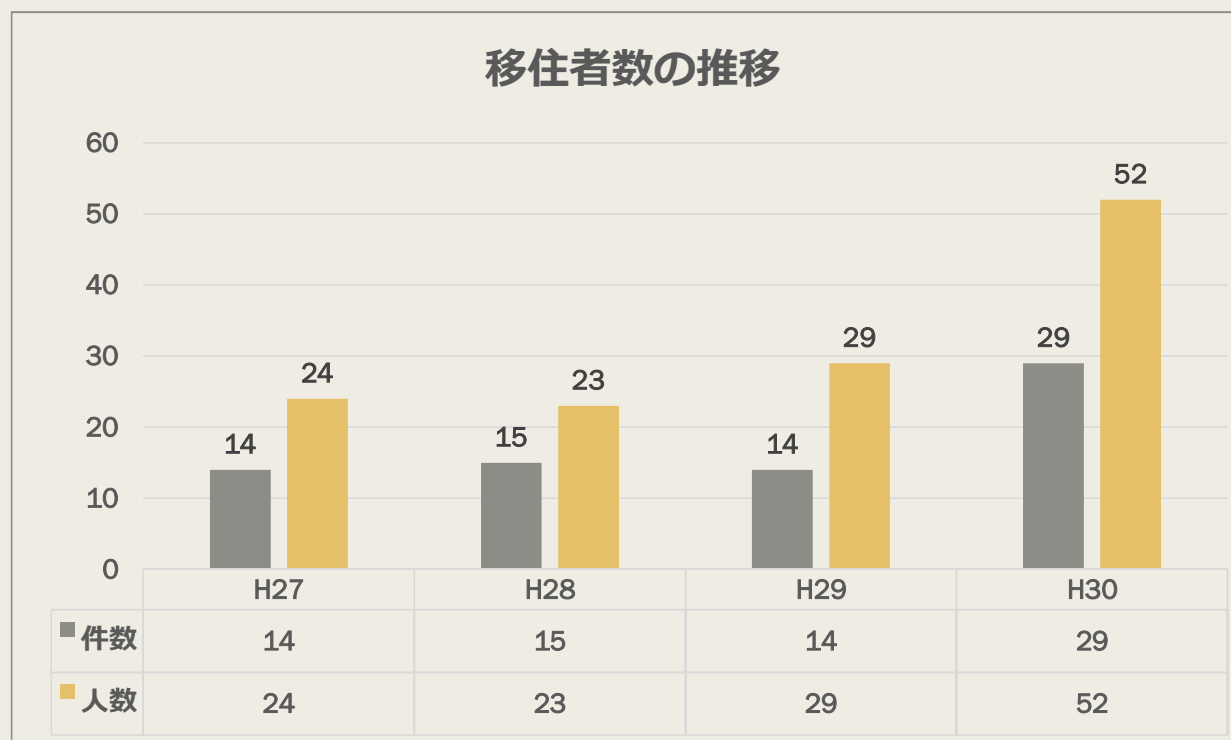
大阪府	70
京都府	24
丹波市内	80
丹波篠山市	10
上記以外の兵庫県内	115
その他都道府県	65
不明	17
合計	381

※単位は人数

「移住者数は前年度比約 2 倍」

年度後半にかけて移住を決める人が増え、特に新年度開始に合わせて動いた農の学校関係者の増加が影響。移住者合計 52 名は、相談者総数 381 名の 14% に相当し、前年比（246 名の相談者のうち 29 名、12% が移住）で 2 パーセントの増加。

これは、移住定住関連業務の一元化によって、特に移住希望者との直接的接点の多い PR 業務と相談窓口業務間の連携が進み、より効果的な対外コミュニケーションができたことに起因する変化。

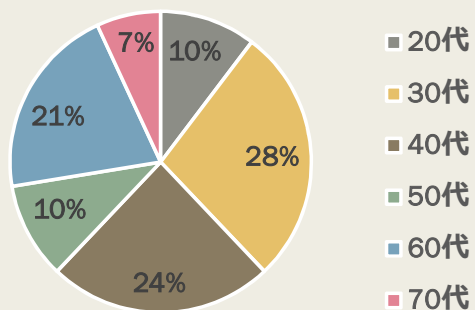


Who

移住者の年齢層と属性は？

移住相談者のボリュームゾーンと同様に、30代40代が多かった。単身者の比率が高いのは、H30年度新たに接点を持った農の学校や兵庫県立大学の関係の移住者があったため。

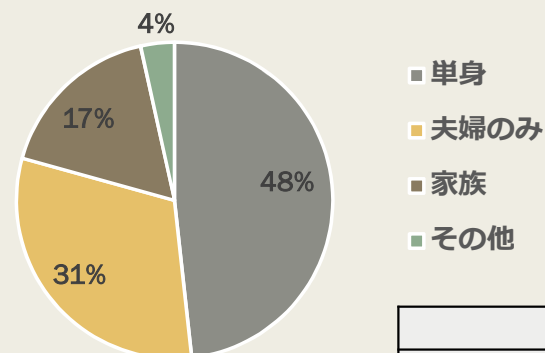
移住者の世帯数（年代別）



※単位は件

	H30年度	比率
20代	3	10
30代	8	28
40代	7	24
50代	3	10
60代	6	21
70代	2	7
計	29	—

移住者の世帯数（家族別）



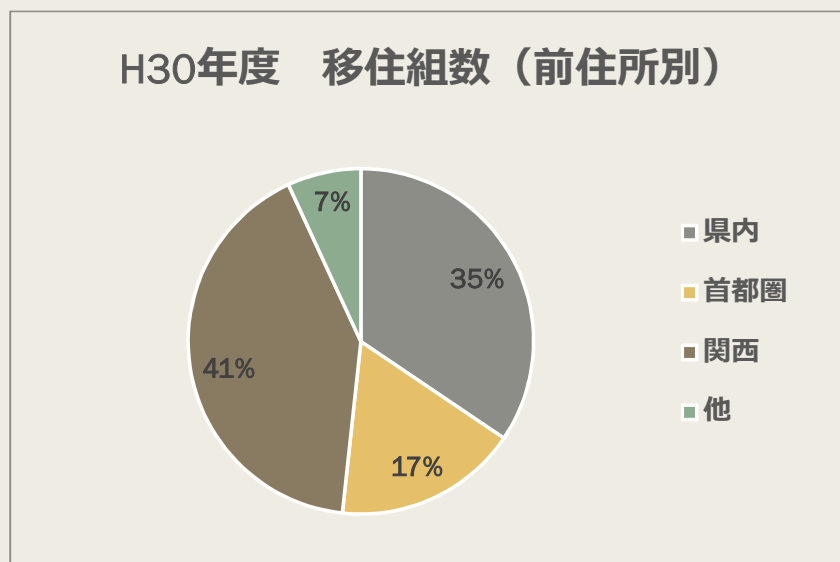
※単位は件

	H30年度	比率
単身	14	48
夫婦のみ	9	31
家族 (子どもあり)	5	17
その他(姉妹 等)	1	3
計	29	—

Where

どこからの移住か？

実際に移住を決めた人の前住所について、県内からの移住が圧倒的に多い傾向。今年度移住した29世帯（52名）のうち、兵庫県内からが10世帯、それ以外の関西都府県では大阪からが8世帯、京都からが3世帯、滋賀からが1世帯あった。



	H30年度
県内	10
首都圏	5
関西	12
他	2
合計	29

※単位は件

Why・What

なぜ丹波市に移住したのか？

H30年度の移住者の移住理由と移住した後の活動・仕事

8件 リタイヤ世代（60代・70代）で悠々自適の暮らしを求めて

7件 30代・40代で就農を目指して（内6件が農の学校関係者）

1件 就学（兵庫県立大学への留学生）

その他、それぞれ個別の理由だが、中には、たんば“移充”テラスが過去に行ったイベント参加が丹波を知るきっかけになった人や相談窓口で紹介した人のつながりがきっかけの人も。

読み取れる特徴

- 相談する相手を丹波市に決めている人は少ない一方で、移住の目的は明確なケースが多い。つまりその目的が果たせる場所として選ばれると移住が具体化する。
- 移住希望者に「ここなら夢がかなうかも！」と思われる要因の一つは、理想の田舎暮らしを実践する先輩移住者の存在を知る事であり、その人達とつながること。

2.

事業ごとの 活動内容

- たんばの仕事
- 丹波“移充”計画
- 移住定住促進業務

たんばの仕事

移住の重要条件である仕事について、市内事業所等のやりがいのある仕事や魅力ある仕事、地域行事等で求められる人材の情報を収集し、インタビュー記事や交流会などイベントで移住希望者へ発信する。

【結果と効果】

■ 記事掲載実績

掲載記事件数	問い合わせ人数	問い合わせ企業数	採用件数
24	10	10	5

■ イベント実績

	日時	場所	参加人数
LO活伊藤氏「採用戦略セミナー」	8/18 (土) 17:00~19:00	柏原住民センター	11名
1部「地域の仕事人図鑑『丹波の1ターンコンビが創った新しい仕事』」 2部「丹波の仕事を考える会〜1ターン移住者に聞く丹波の仕事〜」	9/22 (土) 14:00~21:00	東京都 Little Japan	1部10名 2部10名
採用覆面合宿	1/19 (土) 13:00~ 1/20 (日) 12:00	丹波悠遊の森	求職者7名 企業5社



考察：たんばの仕事

- 移住希望者の多くはこちらから紹介するまでもなく本事業のことを知っており、ウェブサイトは情報収集源として活用されている。
- 移住相談と求人募集のタイミングが合えば問い合わせから採用手続きへとつながるが、そのような直接的な効果以上に、求人の有効期限が切れたインタビュー記事でも読まれ、丹波市のような地方で働くことに対する認識や地元企業の認知の向上に大きく貢献していると考えられる。
- 掲載記事件数の増加とともに、丹波市内にある事業所や働き方のイメージが掴みやすくなった。これにより利用者からはより鮮度の高い情報を求める声が上がっており、また、より幅広い層に響く事業にするため地方での働き方に関するトレンドセッティングをするような新たな視点の提供が求められていると考える。求人情報の紹介だけにとどまらない、新たな機能を付加すべき段階に来ている。

たんば“移充”計画

移住者に向け、充実した丹波暮らしを支える相談の場や交流の手助けなどを行うため、移住希望者や移住者、移住者を応援したい人などが参加する交流会や情報共有の場を作る。

【H30年度活動の結果と効果】

■ 交流会の開催

	日時	日時	参加人数
農家民宿おかださんと 野菜収穫＆ベジカレー作り	7/18（水） 9：00～14：00	農家民宿おかだ	9人
竹岡農園さんと 里山ピクニック！	8/22（水） 9：00～14：00	竹岡農園	大人：5人 子ども：8人
Uターンナイト	12/29（土） 16：00～22：00	JR柏原駅構内 山の駅	17人
三心五観さんと 自家製手作り味噌ワークショップ	2/2（土） 10：00～14：00	三心五観	大人：6名 子ども：5名
ようこそ丹波へ！ランチ会	3/16（土） 11：00～15：00	牛舎館および 周辺地域	大人：21名 子ども：7名



考察：たんば“移充”計画

■ 人が人を呼ぶ効果に焦点をシフト

昨年度、移住後の生活の中で困りごとを抱えていても、他の移住者や相談窓口のイベントなどに参加する一歩が踏み出せない人をメインターゲットと定めていたが、アプローチしきれなかった。一方で、移住後の生活をより充実したものにしようと情報収集やネットワーキングに積極的な人達を中心としたコミュニティの広がりが見られた。このことから、困っている移住者への直接的な救済の役割ではなく、人のつながりの中で困りごとを解決していける意識の醸成が必要と感じる。

移住定住促進業務（１）

丹波市への移住定住を促進するための支援活動として、移住定住に関する各種PR活動や、テレワークお試し移住など、地域資源を利用した移住定住業務を行う。

【H30年度活動の結果と効果】

■ 都市部各地で交流会や相談会を開催



相談会			
	日時	場所	受付状況
多自然居住支援協議会JR三宮駅前臨時相談所	5/19（土） 10：00～16：00	JR三宮駅前	相談件数：5件 資料配布：8件
おいでや！！田舎暮らしフェア	7/28（土） 11：00～16：00	大阪マーチャングイズ・マート展示ホール	相談件数：6件 資料配布：2件
ふるさと回帰フェアin東京	9/9（日） 10：00～16：30	東京国際フォーラム	相談件数：7件
ひょうご田舎暮らし臨時相談所	11/24（土） 11:00 - 16:00	ミキ大阪駅前会議室	相談件数：2件 資料配布：1件
JOIN移住・交流&地域おこしフェア	1/20（日） 10：00～17：00	東京ビッグサイト	相談件数：3件 資料配布：4件
ひょうご田舎暮らしセミナー	2/24（日） 14：00～16：40	神戸新聞文化センター	相談件数：2件 資料配布：1件
交流会			
田舎のIT社長BAR	8/31（金） 19：00～23：00	心齋橋 週間マガリ	8人
高齢者施設就職説明会及び移住相談会	8/31（金）、9/1（土） 12/20（木）	丹寿荘、丹波市内	夏：3組4人 冬：2組3人
東京丹波会	9/10（月） 18：30～22：00	東京都新宿区コトカフェ	10人
田舎暮らしの源流を探る交流会	1/12（土） 13：00～16：00	衣川會館	15人
東京丹波会	1/19（土） 19：00～21：00	東京都吉祥寺パブリックキッチン	2人
神戸丹波会	2/23（土） 16：50～20：00	神戸市 iro-hanaかふえ	15人

移住定住促進業務（2）

■ PR業務

	実施日	アプローチ企業
メディア 訪問	9/10～9/11	6社
	11/29	1社
	2/4	1社
ニュース リリース	12/26	271社
	3/31	331社



■ テレワークお試し移住者の受け入れ

テレワーカー	テレワーク期間
高橋 朱様	1/27～2/3
高橋 智広様	1/27～2/3
橘 紀子様	2/9～2/11
武田 竜輔様	2/27～3/1
池 篤志様	2/27～3/1
内田 圭介様	2/27～3/2
飯田 貴之	3/10～3/17
内田 圭介様	3/12～3/15



「お試しテレワークレポート」丹波市のお試しテレワーク 高橋様ご一家 滞在記



考察：移住定住促進業務

■ 各事業との連動性

これまで単発で実施することが多かった交流会などについて、全体業務中での位置づけを明確にすることで、より一体的なコミュニケーションを図る。このことにより、たんば“移充”テラスの認知度が上がるだけでなく、相談窓口やたんばの仕事など直接的な移住支援業務の効果そのものを高めることが期待できる。

■ FBページの閲覧者の多くが市内在住

加えて、日替わり投稿をしているにもかかわらずリーチ数が減少傾向にあり、いいね！やシェアなど何らかのアクションをする人がスタッフの知り合い。要因として考えられるのは、移充など検索キーワードが特殊である点。特にたんば“移充”テラスにページ名を変更してから、検索にヒットしない現状があることが分かってきた。

3.

丹波を
住み継ぐために
私たちが
今すべきこと

- オンライン化
- 地域の理解を深める
- 空き家を資産として見直す

オンライン化

本年度は、既存の運営スタイルに加え、オンラインを通じて移住相談や各種イベント・事業に参加可能になる取組みを推進します。より気軽に、負担なく、しながら円滑なコミュニケーションが深まります。また、新たな移住希望者の掘り起こしや、既存相談者への効果的なフォローに役立てます。



◆移住相談窓口 + オンライン

→1対1 丹波市へ足を運んでもらわなくても顔を合わせながら電話やメールのやりとり以上の情報収集・提供が可能に。

◆移住相談会 + オンライン

→1対N 丹波市にいながらオンライン上で移住相談会が可能に。

◆移住定住交流イベント + オンライン

→N対N より多くの参加者が関われるイベント展開が可能に。

◆TURNWAVE／たんばの仕事 + オンライン

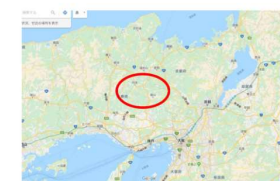
→先輩移住者や社長とオンラインで対面することが可能に。

丹波市×丹波篠山市

オンライン移住説明会&相談会

6/15(Sat.)
19:00~21:00

zoom
利用



地域との連携

相談件数が増えているが、いつまで右肩上がりかは不明。
→属人的な窓口運用から脱することで、対応できる範囲を広げより安定的で丁寧な対応をしたい。

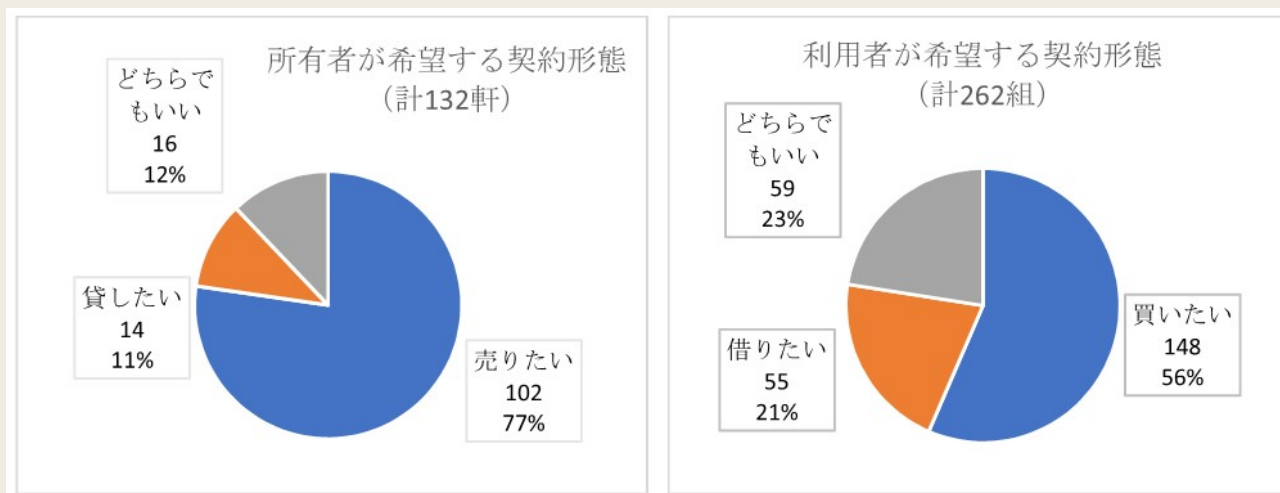
移住希望者は目的をもっていて、それが実現できる場所を求めている。

→相談に乗り切れない場合、窓口の相談員だけで解決しないが丹波市に「合っている（=丹波市には相談者の希望を叶える条件がそろっている）」と判断した場合、自分たちのネットワークに居る先輩移住者や地域住民、専門の行政担当課や団体等に繋ぐ。その選択肢を増やしたい&常にアップデートしておきたい。



空き家の流通を促す

現状：売りたい所有者と借りたい移住希望者に開きがある



- 空き家になって5年以内に登録した物件の成約率は75%である一方、5年以上経過した物件では44%に下がる。老朽化は運用可能性低下のリスクと言える。
- 住まいるバンクの認知度を上げ、地域内でも所有者の登録を促す動きが出てくると、状態悪化を未然に防げる。